

# 「Ado うっせえわ」の歌詞を少しだけ考察 (感想文)

2021年7月18日 作成 (2021年7月19日 訂正)

*m. Ikegaya*

## 1. はじめに

「Ado うっせえわ」(以下、うっせえわ)は動画配信サイト Youtube において 2021年7月17日時点で1億6000万回再生されている動画であり、私のような団塊ジュニア世代が20年前に感じていたことを強烈な言葉と歌唱力で代弁しているようにも思える。これ程大きなコンテンツともなれば他の歌を引き合いに出した歌詞の比較解説を行う者が多く出てくる為、ここでは人間に共通の真理を引き合いにうっせえわを少しだけ考察してみようと思う。なお、歌詞は Ado のオフィシャルから動画<sup>\*1</sup>を参照。

## 2. うっせえわについて

### 2.1 歌手の Ado

うっせえわを歌うのは Ado で、現在までにメジャーデビューを果たしユニバーサル・ミュージック・ジャパンに所属している。18歳の女性と確認できる。ちなみに、所属先の Ado のページ<sup>\*2</sup>はインフォメーションのみで、個人の情報は特に掲載されておらずオフィシャルには出身地も経歴も、外見的特長も示されていない。

また、当人はツイッター<sup>\*3</sup>にて発信を行なっているが、7月に行なったツイートを確認すると「エビレタスチャーハンが食べたい」、「今すぐこの陰キャがビジネスになんないかな…特に喋りとか……」、「久しぶりにゲーム実況をします」、「キャンディクラッシュ入れて1週間で200ステージ来てしまった」、他、本人が投稿した自筆のイラストやイラスト投稿へのリツイートが目立つ。

ウィキペディアの情報<sup>\*4</sup>を用いることには抵抗があるが、要約すれば、小学1年生の頃から VOCALOID の楽曲を聴き始め、小学校高学年になると顔を出さずに活動する歌手の文化に興味を持ち始めている。2017年1月10日、ニコニコ動画にボカロ楽曲「君の体温」の歌ってみた動画を投稿し、これが事実上の歌手としての活動開始と定義できる。中学3年生のこととなる。その後2019年に入ってから楽曲提供者とのコラボレーションが始まり、徐々に知名度が上がると共に、2020年5月に国内メジャーレーベルのポニーキャニオンの企画アルバムに参加。ここでうっせえわの作詞作曲を行なった syudou の曲を配信限定でリリースした。そして、同年10月15日にユニバーサルミュージックよりメジャーデビューすることを発表し、同月23日にボカロ P の syudou 書き下ろしの「うっせえわ」を配信限定リリース。現在に至るとのことである。

### 2.2 作詞・作曲の syudou

2.1の通り、うっせえわの作詞・作曲は syudou が行なった。当人のオフィシャルサイト<sup>\*5</sup>内のプロフィールから、家族の影響で音楽を聴き始め、2012年からインターネット上

での活動をはじめたことがわかる。2018年1月に楽曲「邪魔」や「ビターチョコデコレーション」、「コールボーイ」など多くのヒット作を発表。2019年4月には、【syudou】初のアルバム『最悪』を発売。作曲活動を主にしつつ、2019年10月より自身の楽曲のセルフカバー投稿もしている。また、独自のダークな世界観を武器にファンを拡大している。

「syudouの孤独なラジオ」を毎月配信しており、自身も表に出て活動している。7月配信分では「ラジオでは業務報告を行なうのではなく、どうでもいいことを話すべき」とコメントするなど、ラジオやテレビに対する大きな憧れを示している。大学時代からの友人4人の話題も頻繁に出てくることから、学生時代からの付き合いが継続していることや、歯医者の治療報告といった日常感溢れるトークに溢れている。テレビ番組出演の話題のなかから、ひな壇芸人に憧れていることもわかる。団塊ジュニア世代の芸人の名前が度々登場することからも、一世代上の人間個人に対して不満を持っている様子は感じられない。また、番組内ではコーナーを設けてリスナーから手紙の募集を行なっている。学生時代は節約生活の中でトリ皮井を作っていたことや、居酒屋メニューが好きで、最近は特にさしみこんにゃく（酢味噌）が好物であると公言している。

なお、syudouの年齢や経歴を示す資料は公式サイトには示されていない為、こちらもAdo同様ウィキペディアの情報<sup>※6</sup>を用いるしかない。

1995年9月27日生まれの男性、山梨県出身、栃木県育ち。2021年現在はボーカロイド楽曲、本人歌唱楽曲の発表やセルフカバー、上述の通りラジオ動画の投稿も行っている。家族の影響で音楽を聴き始め、2012年からインターネット上でドラムの「演奏してみた」の動画投稿等の活動をはじめ、2012年後期にはボカロPとして活動を始めた。就職後も活動はそのまま続け、2018年1月に投稿した楽曲「邪魔」がヒットし、同年、syudou自身初となる楽曲提供をアイドルグループのじゅじゅに行なった。その後も多くのヒット作を発表し、2019年には、syudou初のアルバム『最悪』を発売した。その後、2020年1月、会社を辞めて音楽家に転身した。2020年10月に女性歌手であるAdoに楽曲「うっせえわ」を提供。2021年1月からsyudou個人の企画であるラジオ動画「syudouの孤独なラジオ」を投稿、更新している。

### 3. 楽曲を聴いて

10代、20代が丸々と肉付いたその顔面を持つ団塊ジュニア世代以上へ投げかけている言葉として聴けばその通りで、ひたすら苦笑するしかない。「あなたが思うより健康です」、「一切合切凡庸」、「クソだりいな」、「絶対絶対現代の代弁者は私やろがい」などの表現を歌詞に用いることは私などの想像をはるかに超えている。かつて宇多田ヒカルが世に出てきた際、歌詞の文節を考えられない箇所を切った歌唱で驚く世代には突飛なものに思われるが、うっせえわを聴いていて不快な感じは全く覚えない。

10代後半から20代になると上司から会社での御作法、酒の席での御作法、客先での御作法、書類への印鑑の押し方、その他色々の無駄を強要される。こうした一連は現在まで何も変わっておらず、まさにうっせえわだろう。例えば、モノをつくるメーカーにプロパー勤務をしても会議も含めて作法ばかりを教えられる為、開発に関わる時間がほぼ無いのが昨今ある。実働は勤務時間の半分にも満たないのではないだろうか。労働時間の制約も厳しくなっ

ていることから、自宅に多くの仕事を持ち帰らずにはいられないと思われる。大手ほど実際に工場でモノづくりを担うのは外国人労働者が多く、期間雇用労働者であることも多い。ソフトウェア開発において設計やプログラミングを行なうのは下請会社の人間になるケースが大半である。どんな業種も大概と思われるが、金融系の大きなシステム開発ともなると2次下請け、3次下請けもよく見受けられる。5次下請けを耳にしたことがあるが、ここまで来ると指示系統がどのようになっているのか理解できない。もはや「モノやサービスを提供すること＝働くということ」という簡単な式は成り立たない。下請負いの労働者が依頼先の人間に意見することは基本的にはなく、下請負い会社内に不満を募らせることもあり、2次下請け労働者は自分への依頼主である1次下請負いの人間への不満や大元の依頼主へ意見をすることはほとんど無い。階層が下がる程不満の向かう先が大きくなるだけでなく、混乱や制作物の不具合も招きやすい。

こうした歪な構造を知りながら、特に大きな組織に残っている団塊ジュニアから上の管理職世代は環境を改善できないのか、20年前に同じことを感じていた自分達がなぜそう思われる立場になってしまったのだろうか？などという疑問を楽曲から考えさせられる。

#### 4. 歌詞の解釈と少し考察

自分より下の世代の表現を解釈するに際して、自身の価値観を持ち込むことはできない。現在進行形の今とは違った前提を持つ人間に評価などできない。例えば、江戸時代の様々なしきたりについて現代の法律や価値観で評価を行なったらどうなるであろう。不可能なことである。こうした場合、いつの時代でも共通な人間真理や科学を用いてで考えるしかない。1000年前であってもそれ以上前であっても人間の本質は変わらない。

以下、フランスの哲学者であり啓蒙思想家のヴォルテールの著作（1763年）より、

*われわれフランス人は、ほかの国民がもっている健全な意見をいつも一番最後にしか受けいれられない国民なのだろうか。ほかの国民はすでにあやまりを正した。われわれは一体いつ、あやまりを正すのであろうか。ニュートンが証明した法則を、受け入れるまでにわれわれは六十年かかった。種痘（天然痘の予防接種）によって子どもの命を救う手立てを、われわれはこのごろようやく実施し始めたばかりだ。農業の正しい諸原理を実行に移したのも、つい最近でしかない。では、われわれがヒューマニズムの健全な諸原理を実行し始めるのはいつだろうか。※7*

これだけでは解りにくい表現だが、文脈には触れず、現代の言葉に言葉を置き換えてみると解りやすくなるのではないだろうか。

- ・「われわれフランス人」→「老害」
- ・「ほかの国民」→「世界中」
- ・「健全な意見」→「共通の真理や科学」
- ・「国民」→「生き物」
- ・「ほかの国民」→「若い世代」
- ・「すでにあやまりを正した」→「常にアップデートしている」

- ・「われわれ」→「老害」
- ・「あやまりを正すのであろうか」→「そのことに気づくのだろう」
- ・「ニュートンが証明した法則」→「かつて科学的に正しいこと」
- ・「種痘（天然痘の予防接種）」→「科学的に効果的な方法」
- ・「農業の正しい諸原理を実行に移した」→「これまでに実証された効果的な農業方法」
- ・「ヒューマニズムの健全な諸原理」→「いつの時代も人間に共通の価値観」
- ・「実行し始める」→「受け入れて改める」

老害は、世界中がもっている共通の真理や科学をいつも一番最後にしか受け入れられない存在なのだろうか。若い世代は常にアップデートしている。老害は一体いつ、そのことに気づくだろう。かつて科学的に正しいことを、受け入れるまでに老害は 60 年かかった。科学的に効果的な方法によって子どもの命を救う手立てを、老害はこのごろようやく実施し始めたばかりだ。これまでに実証された効果的な農業方法を行なったのも、つい最近でしかない。では、老害がいつの時代も人間に共通の価値観を受け入れて改めるのはいつだろうか。

以上のように、寛容論の発表から 250 年以上経っても老害の本質は変わっていないことが伺える。フランス人だけでなく、考えることを止めてしまった、変わることを諦めてしまった、価値観の再定義をしない人間は世界中にあり、そうした思い込みの世界しか見えない存在が現実を知る世代の足かせになっていることをヴォルテールは表現しているだろう。

また、デカルトの著作（1637 年）を引用するとともに適当な言葉に置き換えれば、

**われわれにはきわめて突飛でこっけいに見えても、それでもほかの国々のおおぜいの人に共通に受け入れられて是認されている多くのことを見て、ただ前例と慣例だけで納得してきたことを、あまり堅く信じてはいけないと学んだ。 ※8**

老害には非常識に見えても、(私たち世代は) ネットワークを通じた多くのサービスから世界中の人々に共通に受け入れられるコンテンツがあることを知っている。だからこそ、これまで「常識や文化」としていることを、そのまま受け入れてはいけないと学んだ。

400 年近く前のデカルトの言葉も現代にそのまま通じるのではないだろうか。ここでは都合よくヴォルテールやデカルトの言葉のほんの一部をピックアップしており全てではない。また、一方で近年はデカルト批判があることも忘れてはならない。

**近代以来発達してきた学問は、発展の結果ともいえるが、現在、自然科学から人文系の学問にいたるまで極度に専門化、細分化している。このように知識や学問が高度に複雑化したなかで、単純な私たちでその答をみつけることは難しい。哲学史においても多くの哲学者がデカルトを批判しているし、現代思想はある意味で、デカルト批判がさまざまな方向に展開されているともいえる。 ※9**

つまり、学問の分野が多岐にわたる現在ではあるひとつの答えに帰結させることはできず、

自然科学的には正しいであるとか、法学的には正しいとか、法哲学的には間違っているなど、万人に共通な形での正しさは難しい世の中になっている。うっせえわの歌詞にある「正しさとは 愚かさとはそれが何か見つけてやる」ということすら、どうした分野における正しさなのか？何の学問をベースにした愚かさなのかをまず定義づけてから問わなければならず、多くが考える普遍的な正しさというものは存在しないのかもしれない。ただ、syudouはそのことを解っているのではないだろうか。「分からないかもね」と断定を避けている点、「アタシも大概だけどうだっていいぜ問題はナシ」の大概から、世代を超えて自身が勝っていることを言いたいのではなく、単に変化を恐れるような人間への不満と、そのような人間が世の中の仕組みを作っていること、そして自分自身がその仕組みの中で生きざるを得ないことのもどかしさを表現したいのではないだろうか。「でも遊び足りない、何か足りない困っちゃうこれは誰かのせい」に表されているように。

## 5. まとめ

どうにもならないもどかしさを表現しているのはこれまでに記したとおりであるが、もどかしさの原因はどこにあるのだろうか。それはやはり根柢なき御作法だろう。なぜ食べやすいように串を外す必要があるのか。人数分串モノがあれば済むのではないか。食べる人間が外してもいい。そもそも御作法とは異質を生み出さない為の、異質を認めない為のものであり、法律まではいかない規制やしきたりのことである。そして一度生み出された規制の大半は解消されることがなく、関わる人間は行動に制限を受けフラストレーションが溜まるばかりである。

例えば、組織の保身の為に規制を行えば更なる規制へと繋がり、責任を取りたがらない管理者も同様に増える。まさに今日この国が抱える問題そのものではないだろうか。本来の管理者とは王や摂政といった一定の権力を有する者から、せいぜい政治を行う者や企業の役員と解すべきだったが、昨今 SNS の急速な普及などによってそのレベルは下がり、地方公共団体の職員や教員、果てには大手企業に勤める社員以下にまで下がってきている。もしくは、国民のほぼ全員が管理者となっていないだろうか。

ドライブレコーダーを誰かがつけ始めると、補助金や目新しさも相まって追従する者が多く現れる。一旦事故が起こり大手メディアを介してその便利さが理解されると、付けない者への不安を煽り、そうした者がレコーダーを新たに取り付ける。そして、製品の単価も下がる。このスパイラルで一気にレコーダーの普及が進み、そこから事故に相当するだけの情報が得られ、その情報が様々なメディアにて発信されることで取り付けていない者への不安を加速させる。そうして、いつの間にか自分を守るための道具だったドライブレコーダーが、自分以外を監視する為の装置、ひいては相互監視装置に変貌してしまう。これは自分が管理者の一翼を担っている証拠になる。カメラという強い対抗要件を備えることで映る相手の行動を必要以上に制約してはいないだろうか。一定数の人々がカメラの前で法規を逸脱し、それが大々的に取り上げられるおかげでこうしたことを考えずに済んでいるが、取り付けることの影響を本質的に考える人間がどのくらいいるのかはわからない。

うっせえわでは多くの規制が支配しているこの社会を受け入れざるを得ないのか、それとも状況を変えられるのかという狭間で“もがくしかないことのもどかしさ”を表現している

のではないだろうか。「頭の出来が違うので問題はナシ」ではなく思考方法が違うので「問題アリ」が本心となるように。また、4にも記したが、年齢にて世代を一括りにせず、考えることを止めてしまった人々が正しいとひたすら思い込み押し付ける「御作法」や「しきたり」等の理由なき常識に対して強い不快感を示し、状況を変えられない自分へのやるせなさをそうした者へ向けざるを得ない自身に対しても不満を向けているように感じられる。ここでいう“理由なき常識”は“空気”と置き換えてもいいだろう。

ただ、これらを表現している Ado 自身は歌声を除けば隣に住む 18 歳と言われても不思議なく、ツイッターなどからはうっせえわの歌唱が全く想像できない。おそらく本人は歌詞について syudou から解説を受けた訳でもなく、特段考えてもいないと推察される。とすればこれ程魅力的な歌唱ができる彼女は全ての解釈を飛び超えられる表現者ではないだろうか。2020 年 5 月にポニーキャニオンの企画アルバムに参加した際に syudou の曲を配信限定でリリースしているものの、どうした経緯で Ado に楽曲を提供したのかまでは調べることは出来なかったが、Ado 以外の歌手が歌っていたらどうなるのかを全く想像できない程完全な組み合わせに思える。これからの活躍が楽しみであるとともに、ボーカロイド環境で育ったアーティストが多く誕生し、既存の音楽業界を根底から変革するものと期待している。

#### <参考>

- ※1 [【Ado】うっせえわ - YouTube](#)
- ※2 [Ado - UNIVERSAL MUSIC JAPAN \(universal-music.co.jp\)](#)
- ※3 Ado (@ado1024imokenp) | Twitter
- ※4 Ado ウィキペディア「[https://ja.wikipedia.org/wiki/Ado\\_\(%E6%AD%8C%E6%89%8B\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/Ado_(%E6%AD%8C%E6%89%8B))」
- ※5 syudou official Web Site「<https://www.syudou.com/>」
- ※6 syudou ウィキペディア「<https://ja.wikipedia.org/wiki/Syudou>」
- ※7 『寛容論』ヴォルテール著：中川信訳、現代思潮社〈古典文庫〉、1970 年
- ※8 『方法序説』ルネ・デカルト著：訳者・出版社不明、自身のメモ書きから
- ※9 『デカルト『方法序説』を読む』谷川多佳子著：岩波セミナーブックス 2002 年